

活用効果評価結果

平成 28 年度

北海道開発局新技術活用評価委員会

NETIS 情報	開発目標	経済性の向上、耐久性の向上、周辺環境への影響抑制			
	新技術登録番号	CB-050059-VE	区分	製品	有用な技術の位置づけ
	分類	共通工 - 法面工 - 植生工 - 植生ネット工			
	新技術名	イースターマット(自然侵入促進型植生マット)			
	比較する従来技術(従来工法)	植生基材吹付工 3cm厚(無播種施工)			
	新技術の概要及び特徴	周辺自生植物の自然侵入で緑化を行う植生マット			

活用効果評価	所見	<ul style="list-style-type: none"> ・マットの固定のみで、吹付に係る機械・ヤード・仮設が不要であるため、工程が短縮し、施工性が向上し、騒音・振動・粉塵等が減少する。 ・長期の法面保護機能により品質・出来形が向上する。 ・周辺飛来種子の定着を促進する工法であるため、周辺環境との調和に貢献できる技術である。 	
	次回以降の評価に対する視点と評価の必要性	活用効果調査の継続は行わない。	
	留意事項	・特になし。	
	当該技術における改良点及び要望	—	

参考

項目の平均(点)と従来技術(従来工法)(点)の比較

経済性
環境
安全性
施工性
品質・出来形

— 従来技術(従来工法)
— 新技術

参考	1	治山砂防堰堤工事	(従来技術: 植生基材吹付工3cm厚(無播種施工))	(活用型: 施工者希望型(契約後提案))
	2	道路改良工事	(従来技術: 植生基材吹付工3cm厚(無播種施工))	(活用型: 施工者希望型(契約前提案))
	3	道路法面災害復旧工事	(従来技術: 植生基材吹付工3cm厚(無播種施工))	(活用型: 発注者指定型)
	4	道路災害復旧工事	(従来技術: 植生基材吹付工3cm厚(無播種施工))	(活用型: 発注者指定型)
	5	道路建設工事	(従来技術: 植生基材吹付工3cm厚(無播種施工))	(活用型: 施工者希望型(契約後提案))
	6	道路舗装工事	(従来技術: 植生基材吹付工3cm厚(無播種施工))	(活用型: 発注者指定型)
	7	河川床固工事	(従来技術: 植生基材吹付工3cm厚(無播種施工))	(活用型: 発注者指定型)
	8	河川砂防堰堤工事	(従来技術: 植生基材吹付工3cm厚(無播種施工))	(活用型: 施工者希望型(契約後提案))
	9	ダム維持工事	(従来技術: 植生基材吹付工3cm厚(無播種施工))	(活用型: 施工者希望型(契約後提案))
	10	高架橋下部工事	(従来技術: 植生基材吹付工3cm厚(無播種施工))	(活用型: 発注者指定型)
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			
	16			
	17			
	18			

活用効果調査結果	項目	ケース番号及び年度	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	項目の平均(点)	従来技術(従来工法)(点)	
		H23	H24	H25	H25	H25	H26	H26	H26	H26	H26	H26											
施工時評価	経済性	B	D	D	D	C	B	B	C	B	B											C	C
	工程	A	C	B	B	B	C	B	B	B	B											B	C
	品質・出来形	B	B	B	C	A	C	B	B	B	B											B	C
	安全性	C	B	C	C	B	C	B	B	B	B	C										C	C
	施工性	C	B	B	B	B	B	B	B	B	B											B	C
	環境	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B										B	C
その他																							
	総合評価点	B	C	C	C	B	B	B	B	B	B											B	C
	今後、当該技術を活用出来る工事に活用したいか	今後是非活用したい		活用を検討したい		場合によっては活用することもある		技術の改良を強く望む		優位性における判定													
		0/10		6/10		4/10		0/10		A	従来技術より大幅に優れる												
										B	従来技術より優れる												
										C	従来技術と同等												
										D	従来技術より劣る												
	追跡調査の必要性	-																					
	追跡調査	-																					